

収穫後の品質低下を抑制する センリョウ炭疽病防除技術の開発

農業総合センター鹿島地帯特産指導所

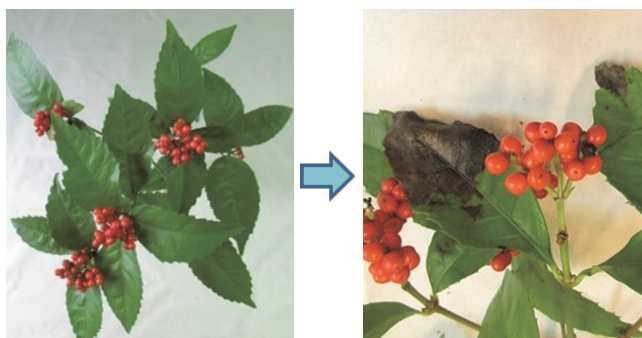
センリョウは、収穫された後観賞されるまでの期間が約30～40日と長いため、品質低下が問題となっていました。そこで、品質低下の原因のひとつである炭疽病の防除技術を開発しました。

- ・炭疽病菌の特性を踏まえた薬剤防除
- ・枯死枝の除去による耕種的防除

この2つの技術を実践することで、高品質なセンリョウを安定的に生産・流通でき、所得向上が可能となります。また、長期の船便輸送による海外への販路拡大も狙うことができます。

センリョウ炭疽病菌の特徴

センリョウ炭疽病は、茎、葉、実を褐色に枯死させる病害です。圃場では発病してなくても、輸送中や販売店、消費者に届いてから発病し、品質を低下させます（写真1）。原因となる炭疽病菌の生育適温は20～30℃で、高湿度条件で感染率が高まります。



収穫直後 輸送後
写真1 炭疽病による輸送後の品質低下の様子

図1 体系防除のスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
重点防除時期			↔	↔	↔	↔	↔
薬剤散布	△	△	△ ▲	▲ △	▲ ▲ △	▲ ▲	
枯死枝除去		○	○	○ ○			

▲ 効果の高い薬剤 △ その他の剤 ○ 枯死枝除去



左：体系防除 右：慣行防除

写真2 輸送後のセンリョウ品質

薬剤防除と枯死枝の除去による体系防除の開発

炭疽病菌に効果の高い薬剤を選定し、病原菌の伝染源となる枯死枝を除去する体系防除技術を開発しました。特に、炭疽病菌の感染しやすい梅雨・秋雨・台風の時期を「重点防除時期」として、効果の高い薬剤を散布します（図1）。

その結果、慣行防除と比べて、圃場および輸送後ともに発病が抑えられ、品質を維持できることが確認されました（写真2）。

所得の向上や販路開拓へ

体系防除では、追加の薬剤散布や枯死枝除去により経費や労力がかかりますが、品質低下による減収を防ぐことができるため収益が増加します（図2）。

また、収穫後の品質低下が抑制されることから、輸送期間が長い海外（アジア圏等）への輸出・販売を計画している経営体にお勧めです。

図2 実証圃場における体系防除による経営試算（10aあたり）

	収益		経営費	
	収量※ (本)	売上額 (円)	防除回数 (回/年)	農業費 (円)
体系防除	5,500	825,000	11	13,553
慣行防除	4,950	742,500	7	11,316
(慣行との差)		82,500 A		2,237 B

※炭疽病による減収量が10%として計算

☞ 慣行と比べて、10aあたり80,263円（A-B）の所得向上